

坂落城の繪圖面の巾原風家康公より所托あり其の
品光禪寺に納めて所宝物と成る

殉死者の墓あり

長岡前但馬守法名貴通義志居士
山家前河内守法名即承了心居士
寒河江前肥前守法名直庭是正居士
寒河江十左衛尉

一 關白豊臣秀次公 近江美濃百五拾万石 豊臣武鑑出

尾州愛智郡乙之村、任右馬允久吉初名之男也、幼而亡父、爲

孤母三位一路秀吉將以再嫁、三好山城守俊保故冒繼父之姓、早三

好孫七郎、後爲祖父秀吉公之猶子、賜諱字曰豊臣秀次、大正

十二年志津嶽之役、有功、同十三年四月長湫役將一軍、而爲三

州勢敗、同十三年紀州及四國九州役有大功也、於此叙從三位

任中納言、同十八年小田原之役、有功也、同十九年奥州九戸有逆

黨、受命將征之、及癸卯亂既平、不交戰而飯陣、文祿元年

爲關白領尾勢江之地八十万石、而在聚樂及大坂城時、爲護

者、父子之際有間隙、然秀次耽淫酒而行狀、每踰距且隱謀之